

合唱の楽しさを感じ、生き生きと  
歌う生徒の育成をめざして

—合唱指導を通して—

浦添市立港川中学校

当 銘 由美子

---

## 目 次

|     |                            |    |
|-----|----------------------------|----|
| I   | テーマ設定理由                    | 1  |
| II  | 研究目標                       | 2  |
| III | 研究の仮説                      | 2  |
| IV  | 研究内容                       | 2  |
| 1   | 新学習指導要領における歌唱の指導内容         | 2  |
| (1) | 音楽科の目標との関連                 | 2  |
| (2) | 学習指導要領より特に「歌唱」と関連がある内容について | 4  |
| (3) | 実際に指導する時のポイント              | 4  |
| (4) | 音楽科のこれからの方向性を考える           | 5  |
| (5) | 教科のねらいと新しい学力観との関連          | 5  |
| 2   | 声づくりのための発声法                | 6  |
| (1) | 歌い方の悪い例とその原因, それを直す方法      | 6  |
| (2) | 変声期の指導                     | 7  |
| (3) | 心を開くための工夫                  | 7  |
| (4) | 発声練習の実践例                   | 8  |
| 3   | 教材選択                       | 8  |
| (1) | 教材選択の観点                    | 8  |
| (2) | 学年ごとの選曲例                   | 9  |
| 4   | 生徒理解と教師の働きかけ               | 10 |
| (1) | 音楽教師としての姿勢                 | 10 |
| (2) | やる気にさせることばかけ               | 11 |
| 5   | 合唱の導入にカノンを                 | 13 |
| V   | 研究の方法                      | 14 |
| 1   | 実態把握                       | 14 |
| (1) | アンケート調査                    | 14 |
| (2) | アンケートの分析と考察                | 14 |
| 2   | 授業実践                       | 16 |
| (1) | 題材                         | 16 |
| (2) | 題材の設定理由                    | 16 |
| (3) | 指導目標                       | 17 |
| (4) | 教材                         | 17 |
| (5) | 教材観                        | 17 |
| (6) | 評価の基準                      | 17 |
| (7) | 学級の実態                      | 18 |
| (8) | 学習指導の展開                    | 18 |
| VI  | 研究のまとめ                     | 19 |
| 1   | 検証授業のまとめと分析                | 19 |
| 2   | 研究の成果と今後の課題                | 20 |
|     | 《 参考文献 》                   |    |

# 合唱の楽しさを感じ、生き生きと歌う 生徒の育成をめざして

－ 合唱指導をとおして －

## 1 テーマ設定の理由

「好きこそものの上手なれ」といわれるように、歌が好きで、音楽の授業を心待ちにしている生徒は、授業中も明るく晴れ晴れとした表情で楽しんで活動している。意欲的な姿勢で向かうので、さらに向上へとつながっていく。すべての生徒がそうだと問題はない。しかし、新しい教材に入った時など、「先生、この曲テストする？成績に入る？」など狭い範囲の尺度でしか考えない生徒、教科書も開かず無気力な態度の生徒、授業に集中しない生徒を見るにつけ、やる気をもたせ、歌う楽しさを感じさせることができないものだろうか。楽しい歌とのふれ合いの場をつくってあげたい、歌うことの楽しさ、喜びをひとりでも多くの生徒に感じさせたいと、常々考えている。歌うことによって自己が解放され、充足感や成就感に満たされることができ、それは情操に働きかけ、精神的成長を促すことにもつながっていくであろう。心の安定を図ることは、多感な中学生の時期において非常に大きな意味をもつものであると考えられる。

現代は技術革新のもとに、科学技術や経済が発展し、物質的な豊かさを生んだものの、それとは裏腹に人間関係の希薄さなども影響してか、心の荒廃が叫ばれるようになって久しい。そのような社会情勢の中から、学習指導要領が改訂され、「豊かな心」の育成を図ることが重要視されていると考える。「豊かな心」をもち、たくましく生きる人間の育成を図ること」がその内容としてうたわれているが、人間性の基底をなす「豊かな心」の育成として、音楽や美術などの芸術科による「美術情操の形成」の果たす役割は大きいと考える。美しいものに感動する心、人間として知情意の調和のとれた発達に寄与する教科としての使命を音楽科は担っていると考える。

歌、とりわけ合唱を通して、生徒それぞれの個性や能力を発揮しながら集団としての、音楽美を求め、調和する喜びを味わうことは連帯感や協調性を養うことにもつながり、人間形成に及ぼす影響も大きい。合唱を通してより多くの感動体験をさせたいと願い、歌への抵抗感をなくし、歌う楽しさを感じさせるためにどのようにすればよいかを考えてみた。

- ◎ 発声法、授業形態、雰囲気づくりなどの指導の工夫をする。
- ◎ 新学習指導要領における、歌唱の指導内容を把握するとともに指導法の研究をする。
- ◎ 生徒理解と教師の働きかけについての研究をする。
- ◎ 中学生の心情にあった教材の選択をする。

以上のことを研究することにより、合唱の楽しさを感じ、生き生きと歌う生徒の育成が図れるだろうと考え本テーマを設定した。

## II 研究の目標

本研究は中学生の心情にあった教材選択、声づくりのための発声法の工夫をすることにより、歌うことの抵抗感を除き、合唱の楽しさを感じる生徒の育成を図ろうとするものである。

## III 研究の仮説

合唱指導において、中学生の心情にあった教材選択と声づくりのための発声法の工夫をすることにより、歌うことの抵抗感を除き、合唱の楽しさを感じ、生き生きと歌う生徒の育成が図れるだろう。

## IV 研究内容

### 1 新学習指導要領における歌唱の指導内容

#### (1) 音楽科の目標との関連

学習指導要領が改訂され、中学校においては平成5年4月より完全実施となった。今回の教育課程の基準の改善は社会変化と、それに伴う生徒の生活や意識の変容に配慮しつつ、次の諸点に留意して行う必要があるということで、4点が示されている。

- ◎ 豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を図ること
- ◎ 自ら学ぶ意欲として社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すること
- ◎ 国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図ること
- ◎ 国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること

さらに、音楽科における改善の方針としては、次の4点を特に重要な内容として示されている。

- ① 音楽に対する豊かな感性を培うこと
- ② 発達段階に即して、個性的創造的な学習活動が活発に行われるようにすること
- ③ 生徒の音楽性の伸長と、主体的な学習態度の育成を図ること
- ④ 我が国及び諸外国の音楽文化に対する理解を深め幅広く豊かな音楽観を育成すること

#### 〈音楽科の目標〉

- ①表現する及び鑑賞の活動を通して②音楽性を伸ばすとともに③音楽を愛好する心情と音楽に④対する感性を育て⑤豊かな情操を養う

① 表現及び鑑賞の活動を通して

今までは表現と鑑賞とが“能力”という視点でとらえられていたが、今回の改訂では能力を身につけるための“学習活動”として位置づけられた。学習活動としての表現とはいうまでもなく歌唱、器楽、及び創作を総称したもので、これらの諸活動が鑑賞の活動と一体となって進められることとしている。

② 音楽性を伸ばす

これまでは「音楽性を高める」となっていたが、今回は表現や鑑賞の活動によって達成する内容として「音楽性」を示している。音楽性とは音楽的な感覚や、表現する技能、音楽活動をするための知識、理解などの諸能力を総称したものである。

③ 音楽を愛好する心情を育てる

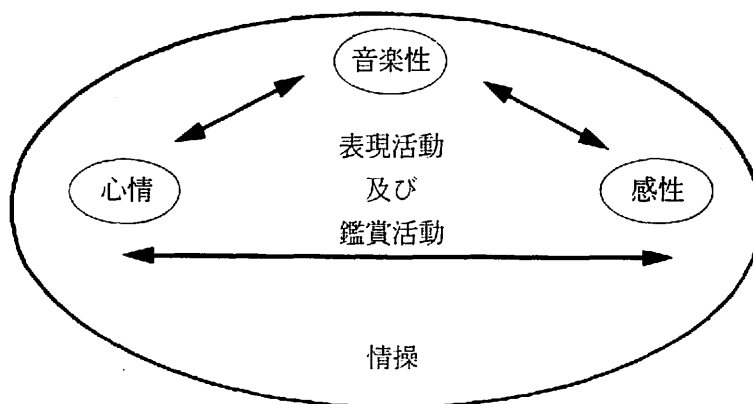
人間は、音楽を聴いてその美しさを感じたり、表現したいという潜在的な能力をもっている。この潜在的な能力に働きかけることによって育成される「音楽の美しさ」を素直に受け入れ、これを表現しようとする心を養うことである。

④ 音楽に対する感性を育てる

今回新たに加えられた部分で、これは、音楽を聴き、味わったり想像したりする「音楽を受けとめる能力」のことで、音楽に対する感覚と知覚を通した直感力として、個性的創造的活動な活動を促すための基礎となるものである。生徒が進んで音楽を表現したりするための原動力となるものである。

⑤ 豊かな情操を養う

この部分は音楽性、心情、感性を育てることによって、最終的に到達すべき内容を示したものである。音楽の表現や鑑賞を通して、養われる情操は音楽経験によって美しさを受け入れ、さらに美しいものを求めつけようとする。



各学年段階としての目標は、表現、鑑賞、生活化の3つの視点から示され、学習指導が弾力的に行われるように1年と2、3年という二段階に分けて構成されている。

(2) 学習指導要領より、特に「歌唱」との関連がある内容について

| 第1学年                                      | 第2、及び3学年                                 |
|---|--|
| ア 歌詞の内容や曲想を感じとって表現の工夫をすること                | ア 歌詞の内容や曲想を味わい曲にふさわしい表現を工夫すること           |
| イ 豊かな響きをもった歌声や、明確な発音に気をつけて歌うこと            | イ 豊かで美しい響きをもった歌声や明確で美しい発音の仕方を工夫して表現する    |
| エ 声部の役割を感じ取り、全体の響きに気をつけて合唱する              | エ 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱する              |
| オ 旋律と和声とのかかわり及び主旋律と他の旋律とのかかわりを感じとって表現すること | オ 旋律と和声とのかかわり及び主旋律と他の旋律とのかかわりを生かして表現すること |
| カ フレーズによる曲のまとまりを感じとって表現すること               | カ 旋律の反復、変化や対照による曲の構成を生かして表現すること          |
| キ 楽曲を特徴づけている音楽の諸要素の働きを感じとり、表現を工夫すること      | キ 楽曲を特徴づけている音楽の諸要素の働きを理解して表現の工夫をすること     |

(3) 実際に指導する時のポイント

- ① 「ア」の項目は、主に歌詞と曲想について示してある。歌詞の内容とは、詩そのものも持っている音楽的な雰囲気や、ことばのリズム、抑揚による旋律とのかかわりも含まれている。そこで詞を通して歌を教え、歌を通して音楽に対する感性を育てていくという姿勢が大切といえる。
- ② 「イ」の項目は、表現活動について示してある。歌唱は声を媒介としているので声を大切に、豊かで美しい響きをもった歌声を求めいくことが大切である。豊かな響きとはよく共鳴する響きをいい、明確な発音とは言葉の内容をよく理解し、それを意識してはっきり表現するという意味である。
- ③ 「エ」の項目で、1年生では感覚的に学習することをねらいにしている。2、3年生においては、主体的・発展的な取り組みをねらいとしている。声部の役割とは、音域、音色などの面や楽曲構成の面などを通して、どんな役割をなっているかを、理解させるようにすることが大切である。
- ④ 「オ」の項目は、音楽の仕組みを音の重なりや旋律の重なりからとらえて、それにふさわしい表現をすることについて示している。実際の音楽体験を重視して指導する必要がある。旋律と和声の関わりや、主旋律と他の関わりを指導に適した合唱教材を選択することが特に必要である。

- ⑤ 「カ」の項目では、1年生において感覚的にフレーズを捉えて曲の気分を表現する。  
2、3年ではより分析的に捉える力を養い、曲にふさわしい表現をねらいとしている。
- ⑥ 「キ」の項目では、表現の工夫について示している。音楽の諸要素には、リズム、メロディ、ハーモニーをはじめ、音色、強弱、速度などがある。これとは別に、構成の要素と表現の要素に分ける考えもあるが、生徒が表現できるように、具体的な教材を通して考えていくことが必要である。

#### (4) 音楽科のこれからの方向性を考える

これからの音楽教育はどのような方向に向かっているのだろうか。音楽科は今、大きな転換期にきているといえるだろう。授業時数が大幅に削減されつつある現状にあることや、社会情勢の変化に伴う価値観の多様化等、めまぐるしい状況の中において、音楽科では何を教えるか、なぜ教えるか、音楽教育が学校教育に不可欠なものであるということ、どのようにして知らせていくかを考えていかななくてはならない時である。今までのように、「愛と夢と希望とあこがれ、ロマン」だけの音楽だけでは適用しない時世となった。基本に立ち帰り音楽の位置づけの意味も考えなくてはならない時期にきていると考える。マルチメディアの到来とともに教材の内容も多様になり、新しい形態の授業、新しい学習の方向を考える時を、今むかえている。ここ数年来よく耳にする、「生涯学習」は今回の改訂でどの教科・領域にも共通の課題になっている。音楽科において、生活と音楽とのかかわりや、文化としての普遍性を捉えることが必要であり、そこに主眼がおかれていると考える。

明治時代より学校音楽教育はヨーロッパ第一主義で西洋音楽が主流であり、日本や郷土の伝統音楽とのかかわりはうすいものだった。しかし、これからは音楽文化という側面から幅広い視野に立って教材の分析をし、教える内容を捉えていかななくてはならないだろう。音楽教師としてこれからどういうことをどのようになすべきかを考えてみた。

- ① 西洋音楽、日本の音楽、民族音楽についての整理をしてみる
- ② 一方的な指導法から脱皮し、生徒のニーズに答えられるような指導方法を組み込んでいく必要がある。
- ③ 教材で何を教えるかを見定め、教材の中に潜む教える内容を捉えること
- ④ 実態に即した指導理念をもち、それが実践につながるようにする。

#### (5) 教科のねらいと新しい学力観との関連

- ① 主体的態度の育成
- ② 個性的、創造的な学習の重視
- ③ 教材の多様化
- ④ 音楽科における基礎・基本の見直し

以上のことを念頭におき、授業に生かすことができるように研鑽を積まなければならない。まさに、自己変革を迫られている時期にきていることを実感するものである。

## 2 声づくりのための発声法

### (1) 歌い方の悪い例とその原因、それを直す方法

芭蕉の句に、「草いろいろ おのおの花の手柄かな」というのがあるが、声も同様でひとりびとりがそれぞれに良い素材をもっている。しかしながら「私はオンチだから」とか他の人にオンチだといわれたり、うまく思うように歌えないなど歌うことに劣等感を抱いている人が多い。自分の声を生かし、良い声を磨くためのいくつかの事例をあげてみる。

| 悪い例                   | その原因                           | 指導事例  |
|-----------------------|--------------------------------|---|
| 息もれがして声に元気がなく、カサついている | 腹筋のささえが弱く響きが落ちているので息もれがする      | ほほに親指をあてて鼻の下に手をおき、手よりも上の方へ声を出すようにする。<br>かかとを上げ、スタッカートで歌ってみる           |
| 固くて声に伸びがない            | あごなど体のあちこちに力が入り硬くなっている         | 肩をまわし歩きながら歌う<br>上体を歌に合わせてゆらしてみる<br>あごやほほを動かし顔の体操をしてほぐす                |
| のどがしまり、きつい声ができる       | 声を出そうと無理をして喉に力が入る              | あくびをするつもりで喉を広げ遠くの人に呼びかけるつもりで声を出す<br>寒い時に手を暖めようと息を吹きかけるような感じで喉を広げる     |
| 地声で歌い、むらのある歌い方になる     | 出しやすい音域など、生の声が出てしまう            | 高い音からだんだん降りて、同じような歌い方をする  |
| 響かない声                 | 口形も小さくボンボンと歌い共鳴しない             | ゆで卵を口の中に入れたつもりで歌ってみる。あの雲まで届けよう  |
| 高い声が出せない              | 地声のまま声をはりあげようとする               | 眉間に指をあてて声を集めるようにしよう音が高くなるにしたがって響きは一点に集めなくてはいけない。そして遠くに響くような声で歌うようにする  |
| 平板で表情がない              | 同一音が続く場合など一本調子になりやすい           | 同じ音が続くけどはじめはりんご、次はミカン、最後はメロン、皆違うもの。イメージをもたせる                          |
| 言葉がはっきりしない            | 発音が不明瞭で母音だけがきこえる               | 子音をややオーバーに発音するように歌詞を読む。<br>口の中をよく開け、遠くの人に語りかけるように歌う。歌は語るように、せりふは歌うように |
| 音程がとれない               | 音をしっかりと聴いていない<br>変声後の男子にもみられる  | 同声のしっかりした声を聞かせ音をとらせ自分の声を聴かせる  |
| 姿勢が悪い                 | 生理的にも精神的にも歌うことへの全身による準備ができていない | 身長を測る時のように1mmでも高くなりたいうつもりで背筋を伸ばしてみよう                                  |



## (2) 変声期の指導

発育が著しく、早い生徒で小学校高学年で変声期に入り、遅くとも中学校ではすべての生徒が終了している。声は生身の楽器であり、その変化中である変声期においては大声をはりあげたり長時間使い過ぎたりなど、喉に負担をかけたり多用は禁物である。無理をすると声の正常な発達が妨げられるからである。しかし、だからといって歌わないというのも避けた方がよく、無理をせずに調子を整えることは大切である。変声期を境に良い声になるチャンスととらえ、模範とする人のそばで歌い、まねをすとか、良い声のイメージをもって歌うなどの工夫をする。

練習を重ねるうちに、理想とする声がだんだん自分のものになってくる。

授業においては選曲の配慮が必要で、特に声域に留意して音がとりやすく歌いやすいなど、考慮することが大切である。変声期をスムーズに乗り越え、充実した声につなげることができるよう、教師は細心の注意を払い指導することが大事である。

### 《選曲の留意点》

- b 声域を考慮して、無理なく歌える声域にある曲であること
- b 技術的に複雑でなく、比較的短時間で把握でき歌いやすい曲であること
- b 男声に主に旋律があり、平易な中にも感動できる内容を含んだ魅力的な曲であること

## (3) 心を開くための工夫

表情豊かに美しく歌いたいという願望は、おそらく誰もがもっていることだと思うが、実際、人前で歌うとなると自信のなさや戸惑い、ためらいなどをもつものである。生徒が自らすすんで歌いだせるまでには幾多の障害があり、それらを取り除いてあげることは歌唱指導において是非必要なことである。

心を開くための第一条件は、自分が集団の中で一個人として認められているということが非常に大きな要因になると考えられる。慣れない集団の中（不安、抵抗、羞恥心、外聞）—その他いろいろなプレッシャーがある中においては、自分を開くことは難しいものである。

互いに交流をかわし、集団の中の個々との関係がうまくいっている場においてはじめて、固い殻から解き放されて心を開くことができる。「歌う」場として心が開かれない所ではなかなか自己解放して歌えるものではない。本人のやる気はもちろんのことだが、認めてくれる、励ましてくれる、許し合える仲間がいるなど信頼のおける友人等のささえは、実に大きな力になる。そればかりではなく、教師の励まし、表情、態度、話法、説得力、ゆさぶり、認める等によるささえも非常に大きな影響力をもつものである。このように、本人の意欲とそれをとりまく集団、さらに教師の三者が良い関係をとる中で、心を開き、歌いたい気持ちにさせ、さらに歌う楽しさへとつながっていくものとする。授業において、教師は専門的な教授をすることはもちろん当然であるが、信頼関係をつくること、何をさておいても第一のことであると考えられる。そのために授業以外でも声をかけたり、名前を覚えたり、個人についていろんな側面を知っていることなども大切である。学級担任とも連携を密にしておくなど、コミュニケーションをとることを大事にしたい。それらのことが大きな影響力をもって、授業に反映する。

#### (4) 発声練習の実践例

これまでにいろいろな方法の発声練習が考えられ、私自身もいろいろためしたけれども、無味乾燥な発声練習に陥ったりしたことが度々あった。そこで、発声のための発声練習は無意味だと思ふようになり、一時期やめていた。しかし、歌いながら自然に良い発声へつなげることができる練習はないものかと、考えていた矢先、二年程前に、那覇地区中音研の研修会に、青森県より講師として来県した竹内秀夫先生の紹介した発声練習は非常に興味のもてるものだったし、まさに私が待ち望んでいたものだった。「楽しい発声のドリル」というもので、歌いながら響きのある声、お腹のささえ、高い音の出し方等が身につくように考えられている点もさることながら、それ自体がメロディーも美しく、歌いたくなる曲になっていることなど利点が多い。

##### ① 「楽しい発声のドリル」 岩河三郎 作詞 作曲

◎「楽しい発声のドリル」 (1)・・・喉を開き響きをつける練習

◎「楽しい発声のドリル」 (2)・・・喉の脱力

◎「楽しい発声のドリル」 (3)・・・腹筋をつかってスタッカートの練習

② 授業の導入として取り入れているものとして「バイバイバイ」「マイマイマイ」発声がある。これは教師、あるいは生徒のリーダーを中心にして掛け合いによる発声練習の方法で、集中力をつけさせる点や、コミュニケーションを図る上でとても効果がある。ピアノは使わずに声のみで行い、順次進行で移動するだけでなく跳躍したり、テンポを変えたりなど聴音の練習にもなるなど、多くの内容が含まれている。

### 3 教材選択

#### (1) 教材選択の観点

より良い教材を選択するには、多くの曲をよく聴き、よく弾き、よく歌うことが大事であり、教師がその曲に感動し惚れ込んでいることは、何よりも絶対条件であると考えられる。合唱指導において選曲は重要なポイントで、生徒の気持ちを汲みあげ、意欲を起こさせるような教材を見つきたいものである。教科書にも、このごろはポピュラー等の曲も取り入れられてきているので、楽しく気軽に歌える面では喜ばしいことである。「合唱の原点はユニゾンにある」といわれているが、ハーモニーの美しさをつくる源はユニゾンであることから斉唱曲も含めた。また、昔から歌いつがれている日本の歌も取り入れ、祖父母、父母、子それぞれ世代をこえて、なお、共通の心の交流が図れるよう配慮した。多様な楽曲のいろいろなジャンルから、選曲を心掛けていきたい。

##### 《教材選択の観点》

- ♪ 旋律が美しく、いつまでも心に残る魅力ある曲
- ♪ 詩情が豊かで夢があり、生徒に理解されやすい曲
- ♪ ハーモニーの響きに变化と深さがあり、音楽的に優れている曲
- ♪ 生徒が興味をもって主体的に取り組みやすく、楽しく学習できる曲
- ♪ 曲の構成がわかりやすく、伴奏も魅力的な曲
- ♪ 生徒の実態に即したもので、音楽的能力が順次高められていく曲

(2) 学年ごとの選曲例

① 1年生

明るく躍動感があり、比較的节奏感でのりやすい曲

☆曲例

\*未知という名の船にのり \*空がこんなに青いとは \*カリブ夢の旅  
\*大空賛歌 \*少年の日は今 \*さんぼ \*となりのトトロ \*夢の世界を  
\*風が運ぶもの \*気球に乗ってどこまでも \*草競馬 \*小さな世界  
\*流れゆく雲をみつめて \*戦争を知らない子供達 \*太陽がくれた季節  
\*旅立ち \*友よ \*鳥の歌 \*Dream Dream \*涙をこえて \*はばたけ鳥  
\*大空へ飛べ \*Shalom \*負けないで \*どんなときも \*夢をあきらめないで  
\*きみがいるだけで \*晴れたらいいね \*贈る言葉 \*よろこびの歌  
\*芭蕉布 \*もしもピアノが弾けたなら \*怪獣のバラード \*セビリアの春祭

② 2年生

メロディーや詩が美しく、心に染めてくる感動的な曲

☆曲例

\*風になりたい \*から松 \*いい日旅立ち \*空駆ける天馬 \*スター  
\*アメリカンフィーリング \*海の賛歌 \*望郷の歌 \*マイバラード \*草原で  
\*Let's search for tomorrow \*思い出は空に \*タンホンザー行進曲  
\*夏の日の贈り物 \*夢は大空を駆ける \*若い翼は \*野生の馬 \*荒野の歌  
\*夏の思い出 \*浜辺の歌 \*アムール河の波 \*イエスタディ ワンスモア  
\*おお シャンゼリーゼ \*川の流れるように \*タイム トラベル  
\*峠のわが家 \*翼を下さい \*カントリー ロード \*フェニックス  
\*モルダウの流れ \*山寺のお尚さん \*雪原に生きる \*早春賦 \*そのままの君で

③ 3年生

芸術性に富み豊かな表現や、ほのぼのとした心あたまる曲

☆曲例

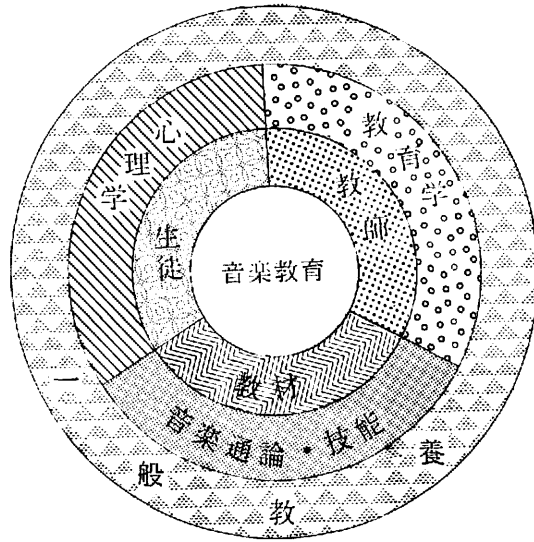
\*時の旅人 \*ふるさと \*明日に旅立つきみに \*貝のファンタジー  
\*巣立ちの歌 \*天までとどけ \*ともしびを高くかかげて \*はるかな友に  
\*マイ ウェイ \*ミスター モーニング \*みんな一つの命だから  
\*大地讃賞 \*遠い日の歌 \*山のいぶき \*一つの朝 \*誰も知らない私の悩み  
\*見上げてごらん夜の星を \*木琴 \*河口 \*流浪の旅 \*青葉の歌  
\*木の実 \*君をいつまでも忘れない \*Deep river \*アニー ローリー  
\*フォスターメドレー \*じゃあね \*心の旅路 \*友よ \*北の空へ  
\*旅立つ季節 \*美しい季節 \*大地の歌 \*帰れソレントへ \*旅立ちの日に

#### 4 生徒理解と教師の働きかけ

音楽科は教科の特性上、生徒とのコミュニケーション、信頼関係が大きく影響するのでいかに良好な関係を築くかが重要なポイントになる。どのようにかかわっていけばよいかを考えてみた。

##### (1) 音楽教師としての姿勢

音楽教師としての基本的な資質として、「生徒への愛情」「音楽への愛好心」「音楽教育への熱意」の3点をあげることができるだろう。音楽と教育に生きがいを感じるのが、音楽教師だが、それには音楽的教養（音楽通論、演奏技能）教職的教養（教育学、心理学）一般的教養を身につけておかなければならない。特に意識の上でたえず研鑽意欲をもつことは大切で、勉強し続けていると生徒はついてくるものである。ふしぎなものでたえず前向きに勉強している教師のもとでは、生徒も生き生きしてくる。教師が足踏み状態だと生徒も意欲がなくなり、ましてや教師が後ずさり状態だと生徒も同じようになってくる。うまくいかない状態でも何とか切り抜けようと努力していると、生徒には気持ちが通じるもので、その気力と努力を生み出すのが教師の基本姿勢といえるだろう。長い間教職を続けていると、一定の型が身につく安住してしまう傾向があるが、そこをいましめたえず学び続ける教師でありたいと願うものである。



##### ① 心の結びつきを大切にする

教師の人間性は直接生徒の心をとらえ、善意に満ちた人柄は学習効果をあげることが多い。音楽科は心情に訴える教科の特性があり、感情的に交流が多く教師と生徒の人的ふれ合いが大きなウェイトをしめている。あらゆる機会をとらえて良好な人間関係をつくることは大切である。

##### ② 音楽への関心をもたせる

生徒の意欲の芽を育てるのは、教師に幅広い知識、多様な音楽感覚と能力、人柄、指導能力等を備えもつことが必要で、このような教師に巡り会えた生徒はおのずと音楽への関心を強めていくであろう。感動につなげる教材を求め、音楽室にくるのが楽しくなるような学習環境づくりをし、諸々のアイデアを駆使し、生徒の身になって音楽との出会いの場を創造していくことは音楽教師の使命といえよう。生徒の心の琴線に触れるような指導を目指したい。生徒が自分の発見（私っていい声しているね、歌って楽しいね）という表情、つぶやきを目にすることを楽しみに、その支援をしていきたい。

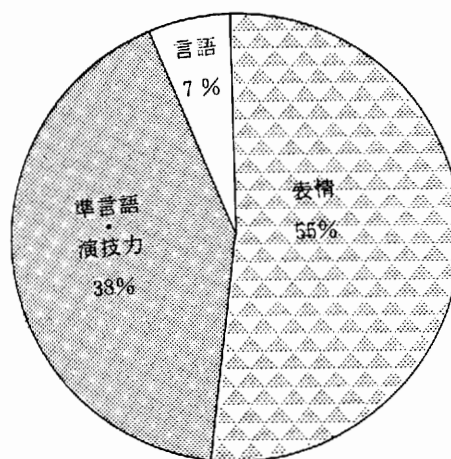
③ 指導力を高めるために研修を深める

生徒の音楽性を培うのは教師の音楽性である。教師は何事においても生徒の先を行くよう努力することが求められている。たえず自分の音楽的感覚や能力を磨き、音楽体験をもつことは大切だといえる。授業という教師生徒間の呼応の場において、教師の一挙手一投足や言外に溢れる人柄、音楽性の及ぼす影響たるや非常に大きいものがある。話し方、板書や立ち居振る舞いや美的センス、教材研究等、生徒にとって魅力あふれる教師になれるよう自己研鑽を深めていく教師でありたい。

④ 豊かな話し方、表情を磨く

生徒とふれ合う時間は年間の授業時数、放課後等を合わせると膨大な時間になる。音楽科は直接、からだ、感性、感情に働きかける教科であるだけに、教師の話し方や表情など生徒に及ぼす影響力も強烈である。アメリカの言語学者であるメラビアンによると、表情によるメッセージとして意志伝達は次の円グラフのようにになっている。

表情や話し方がこれほどまでに大きな影響力をもっていることに、驚きを感じる。快活に表情豊かに話すことができる教師を目指していかなければならない。齊藤喜博氏は「教育は演出である」教師は演技者であれと説いているが、教師に必要な力量として話し方や表情の重要性を強調している。授業において、いかに生徒と良好な感情のつながりを築けるかが、生徒のやる気と学習意欲をひきだすポイントである。そのために「教師は演技者であれ」といわれるように、豊かな話し方、表情、そしてそれを表現できる能力を磨かなければならない。



表情の(顔の表情)

準言語(トーン・イントネーション・ピッチ)

(2) やる気にさせることばかけ

明るくにこやかな表情で、声もやや高めのトーンで授業に入りたいものである。たとえばやなことがあったり、気分がすぐれなくても、授業に入る前は大きく一呼吸をし、気持ちを切り替えてのぞみたいものである。

① 生徒へのかかわり方……そのキーポイントとして

# ほめることは大きな効果を生む。ほめに徹すること!

プラス志向が成功への鍵である。どの生徒にも必ずや良い所があるものである。そのチャンスを捉えて、のがさずほめてあげる場を作ることである。認められることは誰しも、うれしいものであり、ましてや苦手意識をもっている生徒はなおのこと、特にほめる材料を見つけることが大切である。一個人として認めていくうちに、互いに良好な人間関係へとつながっていくと考える。生徒の意を汲む教師、生徒の立場になって考える教師をめざしたい。

# 名前を覚え、会話の中につとめて名前を呼ぶようにこころがける。音楽教師は、時数の関係上、多くの生徒を毎年受け持つことが通常であるが、すべての生徒の名前を覚えることができないと諦めず、つとめて名前を覚えたい。名前を呼ばれることはうれしいことで、良好な関係をつくる基となる。

# 「スゴイ！よくできた。すばらしい……」等、成功感を与え、意欲につなげる感嘆の言葉を多くもつことは財産になる。常日頃から使い慣れていることによって、良いことばかけが、教師の語り口となって、人柄、信条、モットウと合わさって、生徒のやる気につながり、学習効果を上げることにもなる。

＝ 例 ＝

- ◎ 楽譜なしでも歌えたね。みんないい耳しているね。
- ◎ 心をこめて歌えば、すばらしい合唱になるね。きっとやれるよ。
- ◎ スゴイ！一回で出来た。みんな才能あるなあ。
- ◎ 君達の声はきれいだ。さあ自信をもって遠くの人に呼びかけよう。
- ◎ 一生懸命やると美男美女になるね。
- ◎ これくらい笑えるのならすばらしい発声法だ。今のように声が出るのならこの先楽しみだね。
- ◎ みんなで声をそろえて歌うって、とっても気持ちがいいものだね。
- ◎ 話は目で聴く、耳で聴く、心できく、聴くことは発展への大切な第一歩。
- ◎ 音楽には大きい音も小さい音も欠かせない大事な音、同じようにクラスの一人一人が大切な人、みんなで快く歌えるって幸せそのものだね。

# 会話調で話す

話し方には会話調と説明調とがあるが、通常授業では説明調で話すことが多い。しかし、淡々と話しているばかりでは、生徒は退屈し、集中を欠くことになる。そこで、説明調だけでなく、会話調を入れて話を具体的にうきたたせると、生徒の心を引きつける要素になる。たとえば、「ああ、もうだめだ。」と思うか、それとも「よし！やるぞ」と思うのか、「さあどっちを選ぶ？」今、君の値打ちが決まる時だよ。

また、話しかけるような口調で話すことも、効果がある。「君達、これ知っている？」と話しかけ、「わからないだろうな」といって挑発し、「でも知っている人は？」といって生徒に発言をかりたてていく。

感嘆符的な話し方をすると聞く人は心をふるわせる。「うわ！すごいね、愛子さんの声とてもきれいだね。」……。その時のねらいにあわせて、話のしかたを工夫したい。

# 全身で話す

話すということは、単に口だけでなく全身の仕事ととらえる。生徒は思いの外、先生をよく見ているものである。同僚が気づかないことも、生徒はちゃんと観察している。

身ぶり手振りなど、演技も必要で、生徒の心の中に教えたいことが、ストーンと落ちていくようにこころがけたい。優れた教師は、目、顔、からだ全体、表情で語りかけることを身につけることが大切である。豊かな話し方、表情、表現力を駆使できるよう、日頃から訓練する必要がある。

- ◎ 「声に表情をつける」・・・声の強弱、高低、トーンを変えること。体言止め、指示命令、感嘆符的な話し方、ピシッと冷たくきびしい話し方、間の取り方等、変化をつけて、生徒をひきつけ、ほめ、叱り、やる気をひきだすことができるようにしたい。
- ◎ 「おもしろくてためになり、かつ学問的な背景のあることがよい授業」といわれている。そのために、話の三要素簡潔、明瞭、感動をしっかりと頭にいれ、歯切れ良く、ひきしまった話になるようにする。
- ◎ 話の構成はじめ、本題、おわりの構想を練る。「はじめ」でききてを引っ掛け、「本題」では一番いいことを先にいう。「おわり」は短いことばでピリッと印象に残る話でしめくくる。
- ◎ 顔の表情にはその人の内面性がでてくる。教師自ら自己解放（オープンマインド）をして、話が見えるよう「いい顔、いい声、いい心」をモットウに、豊かな表情を身につけたい。

## 5 合唱の導入にカノンを

### (1) カノンの効力

合唱の基礎・基本は“輪唱（カノン）”で身につくといっても過言ではない。誰でも歌える最も小さい作品で、やさしいメロディーを次々に重ねていくことによって、ハーモニーが生まれ楽しく歌うことができる。作曲家の岡本敏明氏が提唱している「カノン五徳」はまさにカノンの効用をうまく言い表わしている。

#### 《 カノン五徳 》

- ♪ 輪唱はかんたんです。だからすぐ覚えます。
- ♪ 輪唱は即座に合唱になります。だから合唱の喜びを味わうことができます。
- ♪ 輪唱は対位的な合唱の喜びを与えてくれます。だから高度な音楽にも通じます。
- ♪ 輪唱は無伴奏で歌うことができます。だからいつでも、どこでも、即座に歌うことができ、利用度が高いのです。
- ♪ 輪唱は即座に歌詞を変えて歌えます。だから音楽の生活化のこれほど便利なものはありません。

輪唱に慣れていくうちに音に対して敏感になり、集中力が養われるため自然に「耳」がきたえられるようになる。また、友人の歌声を聞きながら「なんとかいい合唱にしたい」という意欲が生まれ、さらにハーモニー感も育ってくる。輪唱は合唱の出発点であり、土台を築き力をつける、合唱への最良のトレーニングになる。

## V 研究の方法

### 1. 実態把握

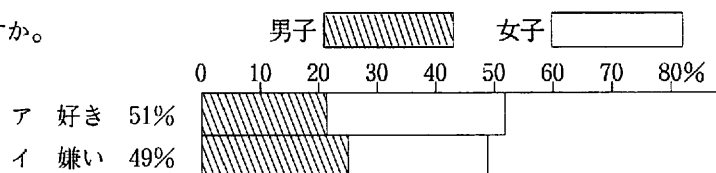
#### (1) アンケート調査

生徒は「歌唱」についてどのように感じ考えているのか、現状を把握するべく次のような項目で、実態調査を実施した。

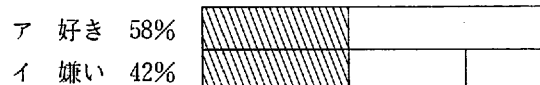
- ① 調査対象・・・中学一年生 8クラス 男子 142名 女子 143名 計 285名
- ② 調査方法・・・選択肢による質問紙法
- ③ 調査期間・・・平成6年 9月中旬
- ④ 集計と分析・・・学年全体、性別

#### (2) アンケートの結果

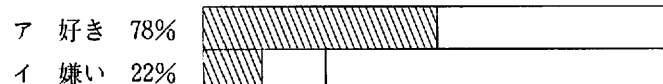
##### ① 歌うことは好きですか。



##### ② リコーダーを吹くことは好きですか。



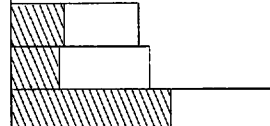
##### ③ 鑑賞は好きですか。



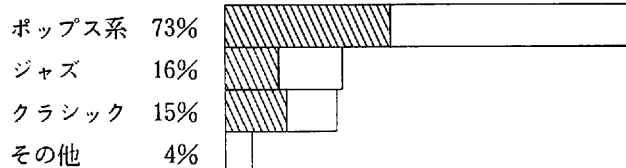
##### ④ その中で特に歌が好き 24%

“ リコーダーが好き 23%

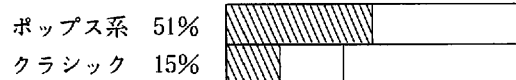
“ 鑑賞が好き 51%






##### ⑤ 好きなジャンルの歌は何ですか。




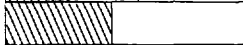


##### ⑥ 家で楽しむ音楽



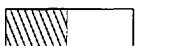
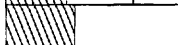
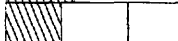


|        |     |   |
|--------|-----|---|
| CDを聞く  | 9%  |  |
| ピアノを弾く | 10% |  |
| その他    | 2%  |  |

⑦ うまくなりたい

|       |     |  |
|-------|-----|--|
| 歌     | 27% |  |
| リコーダー | 45% |  |
| 楽典    | 2%  |  |
| 楽器    | 8%  |  |

⑧ むずかしいと思う

|       |     |  |
|-------|-----|--|
| 歌     | 24% |  |
| リコーダー | 32% |  |
| 楽典    | 21% |  |

(3) アンケートの分析と考察

歌うことに関して、約半数の生徒が好きと答えているが、リコーダーや鑑賞と比較してみるとやや下まわっている。さらにすべての内容の中では、鑑賞が約半数で歌唱は24%と歌に関する関心は予想より少ない結果がでている。理由の一つとして、これまで主にリコーダー学習が中心の授業だったのでその影響もあったのだろうか。男女で比較してみると、女子の方が7%ほど多い。これは男子が変声期にあるので徐々に歌離れの状況がでてきていることが考えられる。好きなジャンルとして、ポップス系の曲が圧倒的に多い。生徒は気軽に楽しく歌える曲を好んでいるという結果がでている。生徒のニーズに答えられる教材選択はやはり必要である。家で楽しむ音楽もやはりポップスが多く、リラックスして歌え、聞ける曲を好んでいる。マスコミの影響が大きく反映していることが考えられる。それはそれでいいとしても、狭い分野に偏らず、もっと広いジャンルから音楽に接する機会があってもよいと思うがそのような環境が少ないことに憂いを感じる。わずかながらクラシックを聞いたり、ピアノを弾いたりする生徒もいるし、驚くべきは男子のほうが数的に多いことに喜ばしく、嬉しい気持ちになった。うまくなりたいのは何かということに関して、リコーダーがトップになっているが、現在まで授業でやっていた内容だけに関心が高いことも予想されるが、歌に関しても27%の生徒がうまくなりたいという希望をもっていることがわかる。音楽でむずかしいと感じていることとして、リコーダーが32%、歌が24%、となっている。考えられる理由としてうまく歌えない、高い声がでない等、多くのにがて意識をもっていることが考えられる。

アンケート調査の結果からいえることとして、教科の内容では鑑賞が一番好まれている。生徒の心情にマッチする曲を選択することによって、歌に対する関心も高くなることが予想される。歌うことに難しさを感じているものの、上手になりたいという希望をもっている。

学級は「十人十色」であり、音楽的にも能力差の大きい生徒の集団である。歌に対して興

味のもち方も様々である。無気力、無感動の生徒が年々増え続ける中で教師は、いかに歌わせるか、楽しませて感動させるか、ということ常々考え頭をかかえている現状である。これは、生徒たちがふだん接している音楽と学校音楽のギャップの大きさからくるものだと考えられる。大部分の生徒はポップス系の音楽に囲まれた環境にいる。その影響を受け、単純で歯切れのよいリズムに敏感に反応するようになってきている。そのため特に一年生の場合は無条件に明るく、リズムのはっきりしたビート感のある楽しい曲であることが大切であろう。表現しやすく、わかりやすいからである。さらに、クラス合唱で最も考えなければならぬ点として、いかに男子を歌わせるかということである。男子がのってこないことには合唱が成り立たない。それでまず男子が歌いやすく、みんなで楽しく歌える曲を選曲する。そして男子がだんだん声をだすようになってきたら、今度は歌い方や表現など深くつっこんで研究できる曲へとつなげていく。というような方法が良からうと考える。

そこで、男子パートのメロディーが歌いやすい、男声と女声の追いかかけのあるもの、一部でもよいから三部合唱になっているものを観点として選曲する。全員が同じように感性が育つとは思えないが、みんなで力をあわせ、合唱という文化を作り上げることを目覚めさせるため、生徒の気持ちをつかみ生徒の要求に応じられるように、指導法を工夫し努力することの大事さを強く感じるものである。

## 2 授業実践

### 音楽科学習指導案

平成6年 12月13日(火) 4校時

浦添市立 港川中学校 1年8組

#### (1) 題材 「合唱を楽しむ」

#### (2) 題材設定の理由

1学期からこれまで、斉唱や部分二部合唱を主体にし、さらにアルトリコーダーの学習を進めてきた。混声合唱に入るのは今回が初めてである。

音楽的には能力の差も大きく、歌に対しての興味の持ち方も様々な学級集団にいかに歌わせ、楽しませて感動させてあげられるかが、肝心なところとなる。多くの生徒はテレビ、ラジオ等の影響を大きく受け、ポップス系の音楽に慣れ親しんでいる。歯切れのよいリズム、ビートのきいた音楽に敏感に反応するようになってきている。さらに男子においては、小学校の高学年より変声期が始まり、歌への抵抗感がでてくる頃となり、いかに歌わせるかが問題になる。男子がのってこないことには、楽しい合唱は成立しない。そこで教材選択は非常に重大な必要条件になってくる。男子が歌いやすく、生徒の気持ちをつかみ、生徒の要求に応じられる選曲をするということは、合唱の導入において重要なポイントといえよう。

そこで、この条件を備えた適切と思われる教材を、あらかじめ教師の方で4曲程候補曲として提示し、決定はあくまでも生徒にゆだねてみた。教師側の一方的な決定ではなく、生徒たちが自分たちで選んだという、ある意味での自主性をもたせることによって、やる気を起こさせることにつなげたかったからである。

個人の課題、グループの課題を具体的に確認させ、パート練習を中心に皆で協力し、学級

全体で楽しい合唱づくりをする。そしてさらに、内容の深まりのある合唱への意欲へつなげたいと願い、本題材を設定した。

(3) 指導目標

- ① 明るくのびのびとした声で歌わせる。
- ② 各パートの音程やリズムが正確にとれるようにさせる。
- ③ パートリーダーを中心にグループ学習ができるようにさせる。
- ④ 曲に合った表現の工夫ができるようにさせる。

(4) 教材

混声三部合唱 「おおシャンゼリゼ」 ト長調 四分の四拍子  
安井かずみ 訳詞 マイクディガン 作曲

(5) 教材観

シャンソンのしゃれた気分の感得と表現  
(街の人波に明るい期待を感じる楽しさをあらわす)

原曲はシャンソンで混声二部合唱曲に編曲されている。明るくリズムのはっきりした、ビート感のある楽しい曲である。主旋律がおもに男子パートにあり、音域も歌いやすく、比較的に歌うことに苦手意識をもっている男子にとって良好な教材といえる。女声もオブリガード的なフレーズが多く、高音を出ず練習としても良い教材といえる。男声とのかけ合いやハーモニーのおもしろさも楽しめる。教科書では混声二部合唱に編曲されているが、部分的にアルトパートを入れ、混声三部合唱へつなげてみるべく、ハーモニーの充実を試みた。伴奏も軽快で歯切れのよいリズム感に満ちたもので、歌いたい気持ちになるよう、配慮されている。

(6) 評価の基準

| 評価の観点               | 評価の基準  |
|---------------------|--|
| (1) 関心・意欲・態度        | 新曲に関心をもち、進んで合唱活動に参加しているか   |
| (2) 音楽の感受や<br>表現の工夫 | 曲の感じをつかみ、曲にふさわしい表現の工夫をしているか<br>(譜面中の曲想を感じとり、表現の工夫ができるか)                                      |
| (3) 表現の技能           | 発音や発声に気をつけ表情豊かに歌っているか(音程・リズム)  |
| (4) 鑑賞の能力           | 候補曲をしっかり聴き、自分たちにふさわしい選曲ができるか<br>他のパートと調和して歌おうとしているか<br>曲のもつ軽快でリズムカルな明るさやメロディの持ち味を感じとることができるか |

(7) 学級の実態

1年生らしく明るく素直な学級である。ほとんどの男子が変声しているが、変声中の生徒や、まだの生徒もいて個人差が見られる状態である。吹奏楽部の生徒が女子に3名、ピアノの弾ける生徒が女子に3名程いる。歌好きな生徒は学級の半数弱で、そうでない生徒も比較的多い。歌うことに苦手意識を持っている生徒が半数いるのには驚かされた。女子においても高い音が出せないなど、歌うことの難しさの感じている生徒も見られるが、歌が上手になりたいと言う気持ちを持っていることに注目したい。

(8) 学習指導の展開

- ① 本時の目標 各パートや学級全体で協力し楽しく合唱ができる。
- ② 評価の基準 混声三部合唱の中で自分のパートがしっかり歌えるか(観点3)
- ③ 展開

| 区分          | 指導内容             | 学習内容   | 観点別評価      | 指導上の留意点   |
|-------------|------------------|--|------------|---|
| 導<br>入      | 発声練習             | 発声練習をする<br>「マイマイマイ」<br>「笑いのカノン」  |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リラックスできるよう体をほぐす</li> <li>・姿勢や口形に気をつけながらのびのびと声出しができるようにさせる</li> </ul>        |
| 展<br>開      | パートごとの<br>ミーティング | <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について話あう</li> </ul>                           | 観点①        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みやすく、ポイントをおさえた課題が設定できるようにさせる</li> <li>・課題を明確にし、積極的な気構えができているか</li> </ul> |
|             | パート練習            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パートごとに課題を発表する</li> <li>・パート練習をする</li> </ul>    | 観点②        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ曲にあわせて、すみやかに移動できるか</li> </ul>  |
|             | 合唱               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員で合唱をし</li> <li>・パート練習の成果を互いに評価しあう</li> </ul> | 観点③<br>観点④ |   |
| ま<br>と<br>め | 学習カード            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードの記入をする</li> <li>・次時の予告を聞く</li> </ul>      | 観点①        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価がきちんとかけるようにする</li> </ul>  |

## VI 研究のまとめ

### 1 検証授業のまとめと分析

#### 《 成果 》

- ① 教材選択を最終的に生徒に決定権を与えたことはやる気、意欲につながり手ごたえがみられた。
- ② 「学習カード」を活用することにより、生徒個々の活動が積極的になると同時に到達度、関心、意欲のようすが把握できる面で効果がみられた。
- ③ パートごとに練習の課題をもたせることにより、リーダーを中心に協力してまとまりのある練習がみられた。
- ④ 楽譜に自分のパートをマーカーで色ぬりをすることで確認ができ、意識のうえで効果がみられた。
- ⑤ グループ編成では4つのパートが能力的にバランスがとれるようにさせた。またリーダーも力のある生徒を選出することの意義を話したことで、成功した。互いに励まし合いながら頑張っている面がみられた。
- ⑥ パート練習にオルガン、キーボード、エレクトーン等機器の利用を図り、またパート練習をローテーションさせたのは授業の流れに変化とメリハリをきかせた面でよかった。
- ⑦ 高い声の出し方や歌い方などは、パート練習を通して教師の模倣をさせたり、ことばかけによって援助をした。

#### 《 課題 》

- ① キーボードやオルガンなどをパート練習に取り組んだのは今回が初めてだったので、慣れない状態で探り弾きをしながらの練習だった。ピアニストの養成、リーダーの育成をする必要がある。
- ② 合唱をまとめる指揮者の役割と実際に生徒の指揮による合唱づくりをさせたい。
- ③ 発展としてアンサンブルができるようにしたい。それによってハーモニー感も育成され歌い合わせる楽しみも増してくる。



## 2 研究の成果と今後の課題

誰でも本来、歌が好きである。しかしながら、歌うことに比較的関心がうすい現状をみて、それを分析し、授業の改善を図ることで研修を進めてきた。文献や資料を読み、授業研究会に参加したりすることで、私なりに方向性がかめてきたこの頃である。しかしながらまだ多くの課題を残しており、さらに新しい方法を探りたいという気持ちもあり、余すところわずかしかない期間を、十分に活用していきたい心境である。

この6ヶ月間、実に多くの収穫があった。私にとって大きな喜びであり、宝でもある。合唱を通して何を育てるかを求めてきたが、時代は変わっても共に歌う楽しさは保ち続けたい。歌うことによって美しい歌詞を心のことばとして心の声であらわし、心の畑を耕やし、情操を豊かにすることができる。音楽教育は音楽能力を育てるばかりでなく、聴く能力、集中する能力をつけ条件反射、情緒性や身体にもよい影響を与え、多面的能力を育てるものである。私自身音楽を通して世界も広がり、多くの友人や良い機会にもめぐまれ、人生観も変ってきた。音楽教育は才能にめぐまれた特別な人だけのものではなく、すべての生徒に向けられ、心豊かに生きていく上で必要な栄養素（ビタミン愛とでも名づけようか）として、ひとりでも多くの生徒が供給できるよう、手助けをしていきたいと考えている。

### 《 参考文献 》

- |                |          |         |
|----------------|----------|---------|
| ・学習指導と評価の改善    | 文部省      | 教育芸術社   |
| ・新学習指導要領ガイドブック | 高宮満弥 他   | 教育芸術社   |
| ・音楽教育と人間形成     | J・Lマーセル  | 音楽の友社   |
| ・教師のための合唱指導と実践 | 渡瀬昌治     | 音楽の友社   |
| ・教師の力量をどう高めるか  | 坂本泰造     | あゆみ出版   |
| ・たのしい輪唱        | 青島広志     | 音楽の友社   |
| ・教育音楽 中学・高校版   |          | 音楽の友社   |
| ・耳をひらく         | 佐々木基之    | 柏樹社     |
| ・歌唱と発声の指導      | 真條将      | 全音楽譜出版社 |
| ・指導者のための合唱百科   | 日本教育音楽協会 | 音楽の友社   |
| ・音楽科の解説と展開     | 塩野勇記     | 教育開発研究社 |